



▲ 活発化する中国との国際交流

遼寧省文物考古研究所との共同研究

1996年に、奈文研は、遼寧省文物考古研究所と「東アジアにおける古代都城遺跡と保存に関する研究—三燕都城等出土の鉄器及びその他の金属器の保存研究—」のテーマで、共同研究の協定を結びました。以来、北票市に所在するラマトン遺跡から出土した鉄製品・金銅製品などを中心に共同研究を進め、観察・実測・写真撮影と保存処理をおこなっています。

ラマトン遺跡は、大凌河北岸の丘陵地にある3世紀末～4世紀代の鮮卑族の墓地です。1993年からの5次にわたる発掘調査で、計420基の三燕時代の墓地が見つかりました。鉄・金銅・青銅製品など多彩で豊富な副葬品が出土していますが、中でも馬具は、4～5世紀の日本や韓国の古墳から出土する馬具の源流と考えられるものです。

現在、協定の最終年度にあたって、共同研究の成果を取り入れた図録等の作成に入っていますが、来



遼寧省文物考古研究所における実測風景

年度からは、ラマトン遺跡からさらに遼寧省西地区の三燕都城関連遺跡出土品へとテーマを発展させ、新たな共同研究を開始します。新しい研究テーマに即して、7月1日にあらためて両研究所間の協定書を調印しました。